

千葉大学医学部同窓会報 第99号 題字 鈴木 五郎

編集発行者

千葉大学医学部

あのはな同窓会報編集部

〒280 千葉市亥鼻1-8-1

千葉大学医学部内

あのはな同窓会

電話千葉 (0472) 22-7171内線2038

附属病院長就任の挨拶

耳鼻咽喉科学講座

金子 敏郎 (昭28卒)

平成三年四月一日から岡本昭二病院長の後任を拝命することになりました。附属病院の大きな難局を前に、責任の重大さを痛感して居ります。今後は各個人の倫理感の昂揚に努力めるとともに病院の管理運営システムを再検討する所在でございます。

臨床医学・医療の進歩は周辺科学・基礎医学の進歩に対応して少



しずつ発展するものであり、数学や物理学上の大発見にみられるような、飛躍的進歩が困難な領域です。少しずつの進歩を次世代に伝承して行く時、五十年単位で回顧すれば大きな進歩として評価されます。徒らに萎縮診療を行うことは医学の進歩を停止させることもあって医学・医療の進歩に關与すべきわれわれの取るべき姿勢ではないと考えます。

大病院のあり方を巡っては現在、文部省、厚生省などで検討が加えられている所ではありませんが、何れにしても診療、教育、研究の三本柱を使命とすることに変わりはなく、ただそのバランスを如何に推進して行くかという事が

最大課題であると思われれます。

臨床医学は診療を主体として、患者に全人的見地から医療を行うべきであることは当然の理ではあります。医学・医療の進歩を指して努力することが肝要であり、そのためには基礎医学の強力な支持が必要となります。

平成三年度

あのはな同窓会総会開催

平成三年六月二十九日(土)、椿山荘にて、東京のあのはな会の格別のお骨折により、定刻、貫洞一夫副会長の司会により進行、伊東和人常任理事より開会の辞が述べられた。別に所要があつて吉田亮亮氏が欠席されたため、林豊医学部長が医学部近況報告を行った。最近の教授人事の報告につづき、医学部の発展を期するため、附属病院の検査部を講座化するため文部省に概算要求を行う意向を明らかにした。大学全体の動向として、文部省よりの通達により、次年度より制度としての医学進学課程が廃止され、学生はより自由度の高い一般教養科目の選択ができるようになること、また大学自体の一層の向上が求められ、大学自己評価のシステムが導入されることになったことにも言及した。役員改選の年であり、慎重な考

基礎医学、臨床医学の共栄を計るために、大病院のなすべき事を少しづつ掘り下げて熟慮検討してみるときに到達している様に思われます。

この一文は発令後三日目に執筆している関係上、現状紹介はまたの機会に譲り、抱負の一端を述べさせて頂きました。

あのはな同窓会の皆様の指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。次第でございます。

慮のもと、昭和13年卒業の久保田正助先生を全会一致で議長に選出して以下の議事が進められた。
会務報告：岡本昭二常任理事
決算報告：金子敏郎常任理事
本件に関しては内田成和会計監事より、小野清四郎会計監事の意向をも含めて万事遺漏のなかったことが報告されて会員一同の賛成、続いて平成三年度予算についても金子敏郎常任理事より説明があり、今年度は名簿改定の年度に当たることがはかられ、予算案全体として会員一同の承認を得た。

新名簿予約申し込みのご案内

発行予定 平成3年11月
価格 三千元(送料を含む)
規格 B5版
同封の振替用紙をご利用下さい。三千元の振り込みをもって予約受付とします。なお、その他の

祝平成三年春叙勲表彰

勲二等瑞宝章 横川 宗雄(名誉教授)
勲四等瑞宝章 宮城 和彦(昭18年卒)
藍綬褒章 柴田 耕三(専19年卒)
勲三等旭日綬章 金子 兵庫(昭19年卒)

過去一年間惜しくも物故された会員諸氏の御霊に対し久保田議長の御発声により心よりの黙祷を捧げた。

長沢仁一常任理事より名尾良憲会長を再任しては如何かと動議が出され満場一致で承認した。次に会則十七条により、理事二〇名、評議員一二七名(いずれも任期三年)が承認された。

貫洞副会長(司会者)より理事会、評議員会を合同で進行したい旨提案があり一同了承した。議題に入り、任期三年の理事一八名が会則十八条により互選、承認された。会則十四条により会長に名尾良憲、副会長に井出源四郎、貫洞一夫、渡辺武氏等が再選された。また会計監事に内田成和、小野清四郎氏等がまた再任された。最後に挨拶に立った、名尾良憲会長は、①先年来強調してきた同窓会の活性化はうまく進行していない

速報欄

平成三年四月より、文部省の大学設置基準から、医学部進学課程の名称が削除されました。これで医学部は六年一貫教育をめざすこととなります。千葉大学においても、教養部改組を含む一般教育課程の検討が進んでいます。また、平成五年春以降の医師国家試験は、卒業式前の三月中旬に行われる予定が決定されています。これらを含んで、医学部のカリキュラム委員会では、新しい医学教育についての検討が行われています。

あのはな同窓会報の発行が大変遅れましたことを、深くお詫び申し上げます。

教授就任のご挨拶

山形大学医学部泌尿器科学教室

中田 瑛 浩 (昭38卒)

千葉大学の諸先生の御尽力により、平成2年1月1日付で山形大学医学部泌尿器科学教室の教授に就任いたしました。厚く御礼申し上げます。

山形大学泌尿器科学教室は一九七六年に講座が開設され、鈴木麒一教授が一九八八年まで主催されました。教室は教授1人、助教1人、講師2人、助手7人、大学院学生1人、医員16人より成つて



います。教室員の出身地は山形県がほぼ半数、他は北海道から名古屋におよび、関東以西の者が1/3を占めています。様々な生活習慣からくる異なる思考過程が教室の活性を促進し、研究に臨床に積極的な姿勢を生み出しています。一九八六年には日本泌尿器科学会東部総会において川村助教が特別講演を行い、副腎腫瘍について優れた報告を行いました。腎性高血圧症の発生機序と維持機構に関する臨床的研究、核医学を用いた腎機能に関する研究、尿管閉塞時における腎血流状態の研究が助教を中心に活発に行われています。勝

膀胱の研究は鈴木前教授がライフワークとしていただけに注目いたします。とくに尿管内への癌細胞の侵襲例に対する化学療法と転移防止効果は臨床家にとって見逃すことのできない報告です。ヒト膀胱癌由来の培養株を用いての浸潤様式の研究、手術材料から得られた膀胱癌細胞を用いての悪性度と化学療法との関係について研究は大きく発展する可能性があります。

前立腺癌に対しても独自の治療方針が立てられており久保田講師、柿崎助手を中心としたチームが優れた治療成績をあげています。男性機能障害の診断と治療は石井講師が担当しており、器質的インポテンスの客観的診断をアイソトープ法、温度の測定結果より検索する法を用いて明確にしています。プロスタグランディンを用いての治療法は国際的な注目を集めています。一九八七年の日本泌尿器科学会総会のシンポジウムで石井講師は勃起のメカニズムを報告し、深い感銘を泌尿器科学会会員に与えました。

関連研修病院には長井市立病院、県立中央病院、仙台社会保険病院、酒田市立病院、県立新庄病院、宮城野病院、三鷹北口病院、山形市立病院済生館、鶴岡市立荘内病院、県立河北病院などがあり、それぞれの診療担当者は日々の診療に努力を重ねています。これら

の関連研修病院の立地条件は日本海に面している所、あるいは山に近い所、山形市附近とバラエティに富み、若い教室員を喜ばしています。山形大学のキャンパスは日本一広いといわれています。これらの好条件下で、地域医療の充実のために、また国際的に通用する研究者の育成のために私は「和」の精神を重視し微力ながら努力します。

長崎大学医学部医動物学教室

矢野 明 彦 (昭47卒)

平成二年一月一日付けをもちまして長崎大学医学部医動物学講座を担当することになりました。百三十年の歴史をもつ長崎大学医学部の伝統を引き継ぐに当たりその重責に身の引き締まる思いであります。私は本学部を卒業した後、高見沢裕吉先生のもとで産科婦人科学の臨床研修を受けました。この研修時代に免疫学の必要性を感じ、当時第二病理学教室におられた多田富雄先生(現東京大学教授)の門を叩いたのです。昭和五十五年小島莊明教授の担当する信州大学医学部寄生虫学教室に就職し、以来、免疫遺伝学(特に抗原提示細胞)を基にして寄生虫免疫学の研究を進めております。すなわち、それぞれの師より与えられた宿題にまた合格点の解答を出せず研究を続けているというわけです。

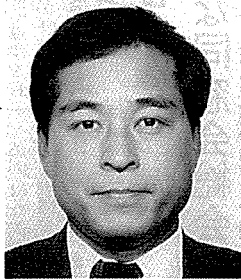
ところで、現在私達の研究領域では、研究目的とする細胞、たと

たいと考えています。御指導いただきました百瀬剛一名誉教授、嶋崎 淳教授、片山 喬教授(富山医薬大)、伊藤晴夫教授(帝京医大・市原)に感謝するとともに、母校千葉大学およびのはな同窓会がさらに発展することを心より祈ります。

今後ともよろしく御指導下さいますよう、御願ひ致します。

例えば免疫細胞やトキソプラズマ原虫などの生物活性を分子生物学的、細胞工学的手法を駆使して分解し解析する作業をしております。その分解過程で新たな物質を発見していくのですが、細胞の機能発現にはさまざまな物質の存在と共に、時間と場が必要であります。そうなりますと、十数ミリの大きさの細胞が宇宙のごとく大きな世界となります。分解する一方で、分解して得られた一つ一つの物質(情報)を組み合わせて元の細胞を、さらには組織、臓器を再構築し、最終的に生体全体の成立を説明するという作業があります。この一見相反する分解と再構築の作業には大変な努力が必要ですが、私はこの作業が医学に根ざしたものでありたいと考えております。最後に私を育てていただきました

を、さらには組織、臓器を再構築し、最終的に生体全体の成立を説明するという作業があります。この一見相反する分解と再構築の作業には大変な努力が必要ですが、私はこの作業が医学に根ざしたものでありたいと考えております。最後に私を育てていただきました



を、さらには組織、臓器を再構築し、最終的に生体全体の成立を説明するという作業があります。この一見相反する分解と再構築の作業には大変な努力が必要ですが、私はこの作業が医学に根ざしたものでありたいと考えております。最後に私を育てていただきました

た先輩の先生方、同僚、研究仲間の皆様に感謝申し上げますと共に、これからも、益々の御指導、御鞭撻のほどお願い申し上げます。

水泳部

30周年記念祝賀会

出来るだけ多くの若いOBが出席出来るよう結婚式の少い仏滅の日をわざわざ選び、平成元年十一月二十三日(祭)千葉市サンガーデンで、初代部長百瀬名譽教授、二代目部長高見沢教授御夫妻、現部長橋本教授御夫妻、顧問宮崎隆次先生(昭23)をお迎えし、総勢八十名で水泳部創立30周年記念祝賀会を開催した。

実行委員長稲葉憲之氏(昭47)の司会で、OB会長勝田貞夫氏(昭37)の開会宣言の後、水泳部がつぶれないよう三十三年間監督して来た青木謹監督(試合場で監督として働いた事は一度もない)より、

一、第二回東水泳部門で、中田瑛浩泌尿器科助教(昭38・欠席・当日山形大教授就任が披露された)が一人泳いで貴重な参加点一点を稼いだその昭和44年より数えて丁度三十年経った事、

二、若手OBの伊藤公道(昭53)、新井貞男(昭53)の諸君から30周年のバリエーションを熱望する声があがり計画された事、

三、実行委員長稲葉憲之(昭47)、



岩崎秀昭(昭51)両氏の獅子奮迅の働きでこのような盛大な会になった事が紹介された。歴代部長に祝辞を頂いた後、宮崎先生の首頭で乾盃、遠く和歌山からわざわざかけつけてくれた水泳部現役部員の希望の星、玉置哲也教授(昭38)帝京大伊藤晴夫教授(昭39)の想い出話を皮切りに、ほぼ全員がスピーチ。途中、河合祥雄氏(昭50・順大循環器内科)の編集したスライド「水泳部三十年の思い出」が上映され、若い日の顔々を眺め爆笑の渦。最後はOB会幹事長落合武徳氏(昭41)の閉会の言葉、現役部員学一山口仲幸君の発声によるエールに、参加者全員が肩を組んで散会した。若くて優秀な人が中心になって会を企画運営すると誰にも喜んで貰える素晴らしい会が出来た事を参加した誰もが実感した会でした。(青木謹・昭36・記)

す。附記：安中正哉名誉教授(解部二、昭和五年卒)、友永得郎名誉教授(法医、昭和三年卒)両大先輩の御健在を報告しておきます。

クラス会だより

昭八会クラス会

本年の昭八会（昭和12年卒）は東京柴又帝釈天に近い川魚料理「川甚」に於て、平成二年六月十日（日）に開催した。

出席者は十八名（会員十三名夫人五名）で、本年度幹事の蔵彰が開会の挨拶を述べ、昨年十二月二十一日に惜しくも逝去された日向秀夫兄を偲び、物故会員42名にねんごろな黙祷を捧げた。次に幹事久富が簡単に庶務会計を報告し、上海の孔禄卿兄からこの会の直前に届いた航空便を読み上げ、孔兄が親友日向秀夫兄の赴を悼む心情を披露した。

植竹 順兄の乾杯の音頭によって宴に入り、百年つづいていると云う有名な「川甚」の料理に、ビールや酒が程よく廻って、和気あいのクラス会であった。二、三年來健康を害して居られた稲田武夫兄が、すっかりお元気になられてその闊体談には一同大いに感銘を受けた。

出席者十八名（名簿順 敬称略）

稲田武夫 稲生襄 植竹順

小沢達也 小川象一 小川達子

上川名誠一 川北良平 佐藤譲

菅井規矩雄 菅井晴子 鈴木敏

久富良次 久富翠 水野有文

村上実 村上ウタ 蔵彰

尚、本年のクラス会が終ったあと、赴報が相次いで入りました。

恩田光明兄 平成二年六月二十

六日 逝去

水野秀一兄 平成二年七月十日

逝去

ここに謹んで両兄の御冥福を祈ります。

〔幹事 蔵彰、久富良次記〕

昭和二十四年卒会

今年には医師会長の関俊之君の世話で築地河庄双園で平成二年二月十日に開かれた。彼の常宿に近い店だそうで、今更年ら医師会の実力に恐れること暫し、亡くなった林原百合太君の黙祷から始まって乾杯の前にクラス会経常費の相

談があったが、毎度のこと乍ら結論が出たかは何かの点は定かでない。国立がセンターの古い建物の一部が妙に印象に残る界限である。鯖酒は会費の他の別注文で一杯一五〇〇円である。半数位の間が飲んだがフグの鯖の焦げ工合がなかなかよろしく、この辺が河庄の真髓かとも思った。話は銘々勝手なことを喋って、一向に纏りはないが、皆元氣な顔を描いているだけで何よりも有難いことであった。同窓会報に送るのだからきちんと全員の寫真を撮ろうというので、かくの如きものが出来上った。当日の出席者 阿部浩次 大池和祐 大西盛光 賀川興夫 笠井清 向後米造 小島恒教 小林進三 小林弘 国府田幸夫 佐藤巖 佐藤昇一 関俊之 高木



一男 高野興三 田中光 月岡幸雄 長沢仁一 中島令一 守岡稔 師尾武 柳沢頼雄 山中和 長井和行（二十四名） 最近の大学や千葉の街の変わりようが、さっぱり判らぬ浦島太郎のような諸君の多いのは驚いた。忙しい毎日であるうが一度学生時代を思い出して千葉にも出かけて見て貰いたい。

〔長井和行記〕

昭三一會

我がクラスの誇り中沢弘君の帰朝を歓迎し、平成二年四月一日浅草「浜清」に三十名が参集した。

中沢君は横須賀米海軍病院でのインターン終了と同時に渡米。ポルチモア市の聖アグネス病院でレジデントを終えるとともに、一般外科専門医の資格を取得。昭和三十七年ポルチモア市で一般外科を開業し、現在はポルチモア市医師会会長を経て、メリランド州医師会副会長の要職にある。

彼の活躍に対し、ポルチモア市長は「ドクター・ナカザワの日」を設け、レガラン大統領は「輝けるアジアの人」として表彰し、その功績を讃えている。

ポルチモア市は川崎市と姉妹都市関係にあり、ポルチモア市長と川崎市訪問の旅程で、念願のクラス会開催となった。小野清四郎、上原すゑ子、志村公男幹事諸君の企画により、日本舞踊や紙切りの日本情緒を、同伴の中沢夫人、中沢ジュニアも楽しめた。粋なクラス会だった。山崎武君が仕舞で高砂を舞って花を添えた。

「渡米した時は、アメリカは竜



前と変わらなかった。

新任ポヤホヤの森博志国立千葉病院院長をはじめ、教授、病院長がズラリと並び壮観である。同級生の活躍は級友の慶びである。中沢君の国際的な活躍への盛大な拍手で宴を閉じた。（志村公男（昭31卒・上野恭一（昭31卒）記）

春秋会

（昭31卒、開業医グループ）平成二年十一月十二日、東京湾周遊「グルメ客船」で午後七時から二時間という短時間の会。

人気のヴァンデアン号はなかなか予約が取れないが、即位の礼の特別祝日を狙った小野常任幹事の作戦勝ち。料理は意外なほどの美味。私体験で恐縮だがQ.E.2は最高級レストランでもひどかった。暖かく波静かな良夜の幸運に恵まれ、食後に上甲板から東京湾の

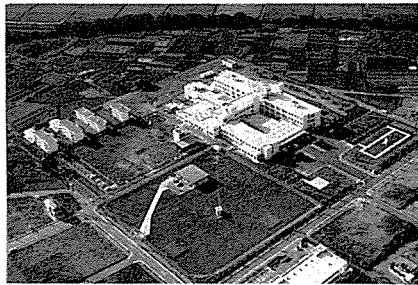


夜景を楽しむことができた。千七百トンの豪華客船の建造費は二十一億円とか。東京の一等地の（超一等地ではない）三、四十坪でしかない。凄いい時代である。「天皇陛下万歳」を提唱したが賛同者なく不発。残念なり。戦時中むりやり歌唱させられた万葉集の「御民吾れ生ける驗あり天地の榮ゆるるときにあえらく思えば」を、しみじみ思う一夜であった。

〔上野恭一記〕

国立佐倉病院だより

横山 健郎 (昭36卒)



「西の長崎東の佐倉」と蘭学全盛時代に喧伝された我國の西洋医学発生の当地に、近代医学形態を取った最初の陸軍病院が第一軍營第二師管の當所（後の歩兵第五十七聯隊）佐倉鎮台付属病院として明治七年ホルトガル人設計により開設され、百年有余の活躍をし続けたが、時代の変遷に伴う社会状況の変動とりわけ医学の進歩と結核構造の変貌（猖獗をきわめた結核の鎮静化、人工臓器の発達、透析人口の急増、医療経済と医療サービスへの要求の質的变化等）のなか、昭和五十四年四月、風光明媚な印旛沼を見下ろす江原台に茶とページョの三階建て現代建築に成り代わり、国立佐倉病院は我國の腎臓移植の中核的存在（国立腎移植センター）として全国移植ネットワークの中心へと新生出発した事情については一九八〇年三

月、ゐのはな新聞に報告した通りであります。

社会状況の変動は、その後今日迄の十年間も絶え間なく続き、国立病院の担うべき医療とは政策医療、高度先進的医療、民間では行なうことの困難な医療等と定義付けられ、昭和六十一年に発表された国立病院療養所再編成計画（国立病院療養所を施設統廃合で三分の二に圧縮）には、国立佐倉病院を腎不全の基幹施設（臨床研究機能と研修機能を持つ）にするとしてあります。

一方、我國の腎不全対策は昭和四十年代に血液透析に重点がおかれ腎移植に対しては前回述べたこととく昭和五十二年から対策が発表されています。これにより我國には十四の地方腎移植センターが整備され国立佐倉病院を中心に腎移植情報システムが完成しました。

さらに、昭和六十三年厚生省保険医療局の諮問機関腎不全対策推進会議は腎不全対策全般の対策をまとめ国立腎センターの設立を、当面国立佐倉病院の機能強化を、と提言しています。

以上の国策を背景に、平成元年十月本院に臨床研究部が設置され組織病理研究室、免疫機構研究室、組織適合研究室、病態機能研究室、システム開発研究室の一部五室体制が発表しました。

現在三村信英院長、横山健郎副院長を中心に、医師も三十三名医

長十三、レジデント七を含む）に増え全員一丸となって死体腎移植の実施と普及、腎臓病の疫学、予防、治療、血液浄化療法の実施、また臨床研究に努力しているところですが、今年秋には外来治療棟および臨床研究部の改装ならびに腎移植情報センター棟も竣工し、装い新たに目標に向かってさらに活動することになります。

本病院は、今後も引き続き病床の増床、研究棟、研修棟を備えたナショナルセンターをめざしてなお発展途上にあります。

第15回ゐのはな

美術展開催

平成二年七月十日から十六日まで、銀座集雅堂ギャラリーで開催しました。出品者は昭和4年卒の今井知文以下昭和41年卒島田哲男ま



で、22名で、洋画31点、日本画3点、陶器2点、計36点が出品され

た。七月十五日、春陽会の森田賢画伯の批評を受けたあと、銀座資生堂で懇親会を行った。出品しなかった会員は7名であった。当会員の12名は、8月14日から開催された日本橋三越本店の日本医家美術展に出品し、本年も同展の中核をなした感じであった。また、この一年の間に、今井知文・伊藤行男・細井四郎・野口眞利は、画業の集大成としてそれぞれ画集を出版した。御要望の会員の入会を御連絡下さい。新規会員の入会を望んでいますので、左記に御申し込み下さい。

〔石谷治彦（昭24卒）記〕
ゐのはな美術展事務所
〒169東京都新宿区高田馬場1-25-29 石谷医院内
TEL 0332000078

体表解剖学書

出版のお知らせ

窪田 金次郎（昭23卒）
時の経つのは早いもので、私は東京医科歯科大学を定年退官して2年が過ぎた。現役時代、生きた解剖学を目指して、生体観察に力を入れて来たことが懐かしく感じられる。私がイバタン大学（ナイジェリア）に客員教授として招へいされ、赴任して以来、この授業の灯は消えなかった。

私は、顎研に移ってからも時間をくつて、多数の男性と女性の写真を撮りつづけてきた。昭和49年に、東独のロストック大学で医学部と歯学部が合併して「生体観察の解剖学教育における意義」と題して講演し、強い感銘を与えた。

これがきっかけでシェーマツハー教授（ロストック大学・解剖学）と共著で「体表解剖学のアトラス」を出版することが決まり、共同研究が始まった。

窪田が生体写真を担当し、これをもとに英文の原稿をつくり、シェーマツハーが写真の体表解剖図の作製を担当、写真と解剖図を対比させた本の内容が10年もの歳月を通して討議された。その間私は7回ロストックに行き、シェーマツハーは4回日本に来て、原稿の調整が行われた。本の英文原稿は脱稿し、出版社との出版交渉の過程で、英語圏には英語版（窪田／シェーマツハー）を、ドイツ語圏にはドイツ語版（シェーマツハー／窪田）が出版されることになった。ドイツ語版は、私の英語版の原稿がドイツ語に翻訳された。

出版社（VEB George Thieme Leipzig）が印刷行程に入ってから6年有余の時間が過ぎ、ようやくドイツ語版「Oberflächen Anatomie des Menschen」、Schumacher/Kubota/VEB Georg Thieme Leipzig 1989 280頁、B4版、写真・カラー図説が平成元年10月出版された。英語版は目下英語圏の出版社との共同出版の交渉が進められている。

いづれにしても、この種の本は過去にいろいろな形で出版されているが、本書のように全身の各部位の生体写真と対比させながら、その体表構造をカラー刷りで図説している本はなく、人体構造をよりよく理解させる上に分かりやすい解剖図説がなされた本は極めて

ユニークな独創性に富んだ本と云える。医学関連領域の学生や実地臨床家にとって重要な医学的情報を提供するものと確信している。本書に興味をお持ちの方は

窪田金次郎
〒169東京都世田谷区三軒茶屋1丁目2番15号
TEL 0334217827
までご連絡下さい。

訃報

寛弘毅名譽教授と逝去
放射線学講座の寛弘毅名譽教授（東大昭11年卒）は、平成三年一月三十日に逝去された。

佐藤 博名譽教授と逝去
外科学第二講座の佐藤 博名譽教授（昭20年卒）は、平成三年八月二十六日に逝去された。

編集後記

平成三年は、クエート・イラクをめぐる中東の湾岸戦争で始まった。その戦争の終結前後の二月に、千葉大学医学部附属病院にも高額医療機器購入をめぐる事件が起こった。さらに、ソ連におけるクーデターを始め、共産党の解体など大きな社会的変動が起こっている。文部省による医学進学課程という名称の廃止、さらに医学部卒業後の卒後研修に關する各方面からの勧告等、医学部・医学部附属病院には、数々の難問が横たわっている。その難問のひとつとして、ゐのはな同窓会報の定期的刊行を解決していきたい。

（岡本昭二）